

山口県立山口博物館

本州西端における中世東アジア海洋交流の基礎研究

—港湾と街道に関わる歴史遺産調査とその活用—

調査研究期間：2024年6月10日（月）～2025年3月31日（月）



土井ヶ浜より角島を望む



肥中街道



研究協力者による会議



柳井市白壁の町並み

【調査研究の内容・目的】

- 日本海航路と瀬戸内海航路の分岐点となる山口県において、海を通じた交流の歴史を多様な分野の研究者が協働して調査研究を実施し、地域や教育機関との連携の素材を作成した。
- 港湾や街道の踏査を通じて、文化財情報のデジタル記録を作成した。また、古絵図や文献史料による検証、関連遺跡の発掘調査成果をもとに、中世交通網の復元を試みたところである。
- 現地に残る文化財や歴史遺産を総合的に検討することで、県内の文化観光やまちづくり、地域交流を促進するための情報を蓄積することができた。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■阿部 来（山口県立山口博物館 学芸課 主任）

【調査研究分担者】

■金谷匡人（放送大学客員教員）

■岩崎仁志（山口県埋蔵文化財センター 事業課長）

■山口欧志（国立文化財機構奈良文化財研究所 主任研究員）

■山田 稔（山口県立山口博物館 学芸課 主任）

■岩村和政（山口県立山口博物館 学芸課 主査）

■杉江喜寿（山口県立山口博物館 学芸課 主任）

■大森鑑能（山口県立山口博物館 学芸課 専門学芸員）

■赤崎英里（山口県立山口博物館 学芸課 主任）

■漁 剛志（山口県立山口博物館 学芸課長）

【実施計画】

■1カ年計画1年目

【主な調査研究対象など】

■山口県各地の中世港湾や街道について現地踏査を実施

■港湾に関わる文献・絵図・出土品・石造物などを総合的に検討

本調査研究では、県内の中世港湾について、文書・絵図・出土品・石造物など多様な資料を総合的に検討することで、交通や流通網の復元を進めた。

調査研究では、現地を積極的に踏査し、文化遺産の記録と地形の観察を軸とする手法を採用した。このような調査研究を通じて、中世港湾の景観について多くの情報を蓄積している。

響灘から日本海側では、下関市の土井ヶ浜・肥中・室津、長門市の向津具・三隅、萩市の大井・萩城下町・見島・須佐を調査し、中国大陸や北陸地域との海洋交流を示す石造物や出土品を多く確認した。東アジアにおける本州西端の地域性を解明するための知見を得た。

瀬戸内海側では、柳井市の柳井津・平郡島、岩国市の岩国城跡・柱島、下松市の下松港、防府市の中世府中・天満宮、宇部市の藤曲の調査を行った。瀬戸内海側では文化遺産の踏査を通じて、江戸時代の開作（干拓による水田や塩田の開発、のちに工業地帯となる）によって地形が大きく変更されている。そのため、中世の海岸線の復原が課題であることを認識できた。

また、このような現地調査を通じて、各地域の専門家や自治体・教育機関との情報交換を行った。調査研究の充実はもちろんのこと、今後の企画等における連携についても協力体制を構築できた。

本調査研究の実施によって、「海の学び」の視点による新たな博物館活動への準備を整えた。調査研究の成果は、来年度の博物館活動において、広く発信していく予定である。



下松市より周防大島方面を望む



萩市見島、山口県最北端の見島北灯台



下関市室津の沖祭祀遺跡



柳井市、柳井川の旧船着場



下関市神田の東法湾



岩国市錦川の石切場跡

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：①研究成果発信コーナー設置、②調査研究をもとにしたシンポジウムの開催、③調査研究成果を軸とした報告書の刊行、④海を知るための教材開発研究

■実施時期：①2025年12月頃、②2025年9月・12月頃、
③2026年3月頃、④2026年3月頃

■実施場所：山口県立山口博物館および県内の連携自治体

【実施内容】

■本州西端という地域性をふまえつつ、中世港湾や交通網をテーマとした「海の学び研究成果発信コーナー」を設置し、県民への情報発信を行う。

■本調査研究の成果をもとに地域社会への貢献を行うため、中世港湾をトピックとするシンポジウムを開催することで、今後の地域間連携や文化観光、まちづくり政策への提言を行う。

■本調査研究で実施した基礎研究を土台として、さらに多くの県内外の専門家を巻き込んだ議論を継続発展させ、その成果を報告書として刊行することで、より大きな連携の枠組みを構築する。

■文理協働による調査研究を通じて、「海の学び」に関する横断的な情報を蓄積するとともに、課題や教材開発への手掛かりを発見できた。これらの問題意識をもとに、教材開発研究を進める。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■海を知るための教材開発を目的として、MT（ミュージアムティーチャー）と連携した調査研究を行う。

■自治体や博物館等との連携によるシンポジウム等を通じた地域への情報提供を行う。

【特に学校教育との連携について】

■当館のMT（ミュージアムティーチャー）による出前授業において「海の学び」調査研究の成果を紹介する。

■調査研究成果を軸とした「海の学び」を伝えるための教材開発研究を実施する。

【事業全体のまとめ】

本事業による調査研究では、中世港湾の交通・流通網の復元を念頭に置きつつ、海洋交流を示す物的証拠を収集し、港湾の地形変化を検討した。その結果、本州西端に位置する山口県の歴史的な地域性について知見を深めることができた。また、多様な分野の専門家が共同で調査研究を行うことで、「海の学び」を軸とした総合的な視点や成果を共有できたことも重要な成果である。

今後は、本調査研究の成果をさらに深めるとともに、成果発信コーナーの設置やシンポジウムの開催といった博物館活動を通じて、地域間交流や文化観光、まちづくり政策などへの提言を行っていきたいと考える。さらに、学校教育への教材提供も進める予定である。

本調査研究の成果とこれらの博物館活動については、報告書として刊行し、「海の学び」の基礎資料として、今後も広く共有を進めていくこととしている。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 国立文化財機構奈良文化財研究所	調査研究への協力、関連情報の提供
2. 山口県埋蔵文化財センター	調査研究への協力、関連情報の提供
3. 柳井市教育委員会	調査協力、資料および関連情報の提供
4. 長門市教育委員会	調査協力、資料および関連情報の提供
5. 下関市教育委員会	調査協力、資料および関連情報の提供
6. 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	調査協力、資料および関連情報の提供
7. 萩市教育委員会	調査協力、資料および関連情報の提供
8. 岩国市文化財課	調査協力、資料および関連情報の提供
9. 下松市教育委員会	調査協力、資料および関連情報の提供
10. 防府市教育委員会	調査協力、資料および関連情報の提供

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 宇部日報	瀬戸内海の開作と中世の海岸線 11月13日
2. 宇部日報	海路の重要拠点、見島 12月25日
3. 当館 Facebook	「海の学び」調査研究の内容紹介、計11回

以上